

新年のご挨拶

2016年の輝かしい新春を迎え、町民の皆さまとともに心からお慶び申しあげます。旧年中は、皆さまから町政諸般にわたり特段のご理解ご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、全国的に集中豪雨などの異常気象が多発する中、本町は比較的穏やかな天候に恵まれ、農作物の作柄は全般的に良好でした。水稻も5年続けての豊穰の秋を迎えることができ、改めて農業者の皆様や関係機関のご努力に敬意と感謝を申し上げます。一方で、10月には、日本農業の将来にかかわるTPP交渉が大筋合意となり、貿易全品目で95%の関税撤廃、農林水産物では81%の品目が、また、米、麦、牛肉・豚肉、乳製品、甘味資源作物の農産物重要5品目では30%の品目について関税撤廃されることになり、聖域と期待された品目についてもマークアップや関税の段階的引き下げ、輸入枠の拡大など、主業地帯への影響が懸念される内容でありました。また、集団的自衛権を担保する安保関連法案が可決されるなど、今後の国の行方を左右する重要事案が矢継ぎ早に決定された年でもありました。

こうした中、本町では8月に厚幌ダム建設の定礎式が北海道知事を迎えて執り行われ、現在、平成30年度供用開始に向けて昼夜兼行で施工されております。関連する国営農業用水再編対策事業、道営ほ場整備事業、統合簡易水道事業なども厚幌ダム建設に合わせ進められており、町民の悲願であった水害のない安全で安心なまち、効率的で汎用性の高い生産基盤が実現しようとしています。これまでご協力いただきました関係各位に改めて感謝申し上げます。

日本全体が人口減少社会を迎える厳しい時代にあり、特に地方においては地方創生という新たな課題に早急かつ重点的に取り組む必

要があります。本町でも「厚真町まち・ひと・しごと創生長期ビジョン・総合戦略」を昨年秋に策定しました。安全・安心をもたらす社会基盤の整備、産業や地域社会を担う人材の育成、地域特性を活かした新たな挑戦への支援など、各分野において、関係各位が主体性（自発性）、多様性（総合性）、革新性を発揮していただき、町民の皆様の総力を結集して、快適で活力に満ち、健やかでそれぞれの世代が輝くあつまを目指してまいります。

折しも、本町の今後10年間のまちづくり構想を定める「厚真町第4次総合計画」をはじめ、重要分野別計画では、関係機関における農業・農村振興施策を統合整理する「第7次厚真町農業振興計画」と本町が目指す教育の方向性を明らかにする「厚真町教育振興計画」を策定中であります。いずれも新年度からのスタートする重要な計画でありますので、町民の皆様には、懇談会、パブリックコメントなど策定段階からの参加をお願いします。

今年の干支は丙申であります。形がハッキリするという成長段階を表す年と言われており、ただ待つのではなく積極的に行くことが良いとされ、まさに、本町の新たなスタートには絶好の年であります。

春には、厚南地区で建設中の認定こども園と児童会館が完成し、併せて学童保育と放課後教室の一元化を図ることで、幼児からの一貫した教育環境が整います。昨年度に引き続き建設している子育て支援住宅と移住・定住施策の充実により、子育て世代の転入も徐々に増加しており、また、近隣からも高い評価を受けている学校教育の取り組みは、子どもたちの「生きる力」を育み、「全国学力・学習状況調査」において継続して好成績を収めるなど、着実な成果を上げています。

田園回帰のムーブメントの中、食料とエネルギーと環境が整う本町は、創造的な活動の拠点として、或いは様々な挑戦を試みる地として各世代から支持され、選択してもらえ、可能性が高いと考えています。私たちの使命である「豊かな森と海、輝く田園を次世代へ引き継ぐ」ためにも、町民の皆様には変わることなくフロンティア・スピリッツを発揮し、ブランド力・付加価値の向上など山積する課題に粘り強く向き合っていただきたいと思います。

厚真町にとって2016年が大いなる飛躍の一年となるよう、職員とともに全力を傾注してまいりますので、皆さまのご支援ご協力をお願い申し上げます。

結びに、町民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

平成28年1月

厚真町長 宮坂 尚市朗